

今月の interviewer
大月短期大学
左 みのおひとみ 箕輪瞳さん
右 ささおかこのみ 笹岡好実さん



夢を叶える
大月仕事人

連載

大月は
自然が

1番です。

山に情熱を注ぐ山のスペシャリスト

“夢をかなえる大月仕事人”の第3回目として、ボランティアで大月の山々をガイドする「山の達人」藤本政幸さんに、大月短期大学生がインタビューしました。



1. オリジナル山岳マップを紹介
2. 巧みな話術にほっこり
3. グルッと山に囲まれる大月

私には叶えたい夢がたくさんあります。その1つは、大月の山を『初心者が来たい山ナンバーワン』にすることです。

都内から近い大月の山には、多くの初心者の方々が登りに来ます。ですから、初心者のための案内板などを整えておかなくてはなりません。登山者の事故の話は聞きますが、その原因の多くは「道間違い」なのです。山には、ガイドブックには載っていないような、けもの道や分かれ道が多くあり、道を間違えることで、危険な場所に近づいて事故にあつたり、遭難したりしてしまふことが多いと考えます。

私は、初心者が安心して登り口から下り口にたどり着き、これが良い思い出となって、大月の山を好きになっていただくことにつながれば良いと思います。

そのために、山のガイドをするときは、どんなに慣れた山であっても必ず事前に状況確認のため

—これからの夢や目標は。

—市の観光ボランティアとしての山岳ガイド活動を始めたきっかけと内容を教えてください。

きっかけは、30から40年前になります。当時の山頂には、当たり前のようにごみがあり、お弁当のごみや空き缶など、「そこに捨てるもの」という状況でした。それから、ごみを拾いながら歩き、ごみの持ち帰りの呼び掛けをしてきました。結果、今現在、ほとんどごみはありません。



ふじもとまさゆき
藤本 政幸さん

～プロフィール～
大月市観光ボランティア
山梨県自然監視員 大月町真木在住
座右の銘：山は友達、一生のおつきあい
大月のお気に入りの場所：雁ヶ腹摺山

私は山が大好きです。そして、私のモットーは、「山と話そう」「山と友達」であり、これからも山の素晴らしい景色や環境を守り続けていきます。

また、特に若い人には、若い時から山に触れてほしい。山は季節によって景色を変え、登るたびに新しい発見があり、そこが山登りの醍醐味です。若い頃からたくさん登って、ぜひ山と話し合って友達になってほしいです。

1つずつ積み上げ、重ねて次のステップへ

記事では紹介しきれませんでした。クマや大蛇との遭遇、戦国時代・松姫の遺物の大発見、遭難者救助の話、自然監視員活動など、エキサイティングな体験談が満載でした。こうしたワクワクドキドキの藤本さんのお話から、私たちは次のことを感じ取り、学ぶことができました。

- ①大月の山とその自然を知ることから「地元への愛」が生まれる！
 - ②地道な「継続」と「継承」が地域と人を豊かにする！
 - ③「感謝」と「貢献」の気持ちがあれば夢が膨らむ！
- 私たちも藤本さんのように、自分たちが長年過ごしてきた地元を深く知っていかうと思いました。そして、それを「地元への愛」から「自分への夢」につなげて、将来への「さらなるステップアップ」の力にするべく心に誓いました。

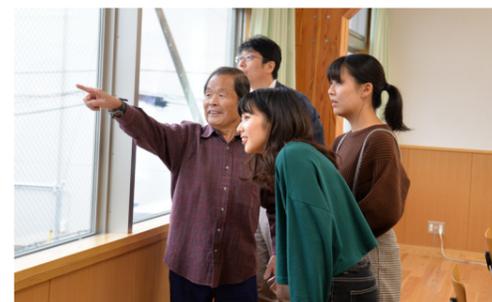
に登って、「登山者の良い思い出づくりのお手伝い」をしています。また、他のグループが道に迷わないように、看板の設置と道しるべのテープ付けの活動を続けていきます。これは、自分自身もこの活動を通じて今の健康があり、その健康を与えてくれる「山への恩返し」と考えていて、そのためのボランティア活動です。

—「大月の夢」としてメッセージを。

夢は大月の一番の売りである自然の魅力を観光客の方々に知ってもらうことです。それにはPRが大切ですが、PR以前に、地元の方々が地域への関心をもっと高め、みんなが大月に誇りや愛着を強く持つことが大切です。私は、愛する大月のために山に登り続けます。

—「ふるさと大月を学ぶことの大切さ」について。

山には多くの言い伝えや伝説などがあり、私はそういうものを人々に伝承していきたいと考えています。そのために、地域のいきいきサロンなどで山のことを中心にお話ししています。私は地域の皆さんに、ふるさと大月の魅力を知ってもらいたいと考えています。



窓の外には山がすぐに見えます。でも山の名前は知りませんでした。